

公表

事業所における自己評価総括表

|                |                  |    |             |
|----------------|------------------|----|-------------|
| ○事業所名          | 放課後等デイサービスはびねす若里 |    |             |
| ○保護者評価実施期間     | 2026年02月01日      |    | 2026年02月20日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)           | 50 | (回答者数) 30   |
| ○従業者評価実施期間     | 2026年02月01日      |    | 2026年02月20日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)           | 7  | (回答者数) 7    |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 2月 15日     |    |             |

○分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること      | 工夫していることや意識的に行っている取組等  | さらに充実を図るための取組等  |
|---|---|--|---|
| 1 | 運動を中心とした療育を通して、子ども一人ひとりの身体機能の向上と自己肯定感の育成を図っている点 | 発達段階や個々の特性に応じた運動プログラムを作成し、成功体験を積み重ねられるよう段階的な運動活動を実施している。また、運動だけでなく集団活動の中でルール理解やコミュニケーション能力の向上にもつながるよう支援を行っている。 | 運動療育に関する研修や情報共有を定期的に行い、職員の専門性向上を図るとともに、個別支援計画に基づいたより効果的な運動プログラムの充実に取り組んでいく。 |
| 2 | 運動活動を通じて、体力向上だけでなく社会性や協調性の育成にもつなげている点。          | グループ運動やチームでの活動を取り入れ、子ども同士が自然に関わり合う機会を増やしている。また、職員が適切な声掛けやサポートを行い、安心して参加できる環境づくりを意識している。                        | 活動内容のバリエーションを増やし、楽しみながら継続して運動に取り組める環境を整えるとともに、子どもの変化や成長を職員間で共有し支援の質の向上を図る。  |
| 3 | 運動療育を通じて、心身の発達を総合的に支援している点。                     | 活動前後の体調確認や安全管理を徹底し、無理のない運動量で継続的に参加できるように配慮している。また、日々の活動記録を共有し、子どもの小さな成長にも気づける支援体制を整えている。                       | 保護者との情報共有をより充実させ、家庭での様子も踏まえた支援につなげるとともに、地域資源や外部活動なども活用しながら活動の幅を広げていく。       |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等  | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等  |
|---|--|--|---|
| 1 | 運動療育を中心としているため、学習支援など他の支援内容の充実に課題がある点。     | 運動プログラムを中心に活動を構成しているため、限られた時間の中で学習支援や個別支援の時間を十分に確保することが難しい場合がある。 | 活動内容の時間配分を見直し、運動活動と個別支援のバランスを工夫する。また、子どもの特性に応じて学習要素や認知トレーニングを運動活動の中に取り入れるなど、支援内容の幅を広げていく。 |
| 2 | 運動療育の質を安定して提供するための職員の専門性のさらなる向上が必要な点。      | 職員の経験年数や知識に差があり、運動療育の指導方法や支援の進め方に個人差が生じる場合がある。                   | 定期的な研修の実施や職員間での事例共有を行い、支援方法の統一や専門性の向上を図る。また、外部研修等にも積極的に参加し、運動療育に関する知識や技術を高めしていく。          |
| 3 | 運動活動の内容が固定化しやすく、活動のバリエーションに課題がある点。         | 安全面への配慮や限られたスペース・時間の中で活動を実施しているため、プログラムが一定の内容に偏りやすい。             | 新しい運動プログラムの導入や活動内容の見直しを行い、子どもが楽しみながら継続して参加できるよう工夫する。また、職員同士でアイデアを共有し、活動の幅を広げていく。          |